

東北森林管理局

第 61 号 (新年号)

指導普及課だより

発行日 平成23年 1月 4日

郵便番号 010-8550

電話番号 050-3160-6456

住 所 秋田市中通5丁目9-16



# 年頭にあたって

指導普及課長 高橋 東

新年あけましておめでとうございます。

皆様には、平素より指導普及課の業務にご理解とご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、当課では森林環境教育の推進や自然再生、さらには技術開発の取組を進めておりますが、新しい年を迎えたこの機会に昨年の取組を振り返ってみたいと思います。

まず、森林環境教育の取組では、8月に秋田県八峰町で開催した「『学校林・遊々の森』全国子どもサミット in 東北」が印象に残っています。全国から集まった13校の児童による活動発表等がマスコミに取り上げられたことや管内5県のすべての小学校等に配布した報告書により、遊々の森等のPRが出来たと思います。

また、4回開催した「緑の山歩塾」や5月に開催した「森林の市」では、市民の皆さんに森林や森林の恵みを身近に感じていただいたとっております。

さらに、6月と10月には、仁別自然休養林で同休養林のオフィシャルサポーターであるアサヒビール秋田支社の皆さんに歩道整備等を体験していただいたところです。

次に、自然再生の取組については、これまでの保護林等の各種モニタリング調査に加え、朝日森林生態系保護地域における調査の充実を図りました。また、7月に「緑の回廊抜伐り検討委員会」を立ち上げ、学識経験者の意見を聞きながら、緑の回廊内の人工林における効果的な抜伐りについて検討を行いました。

最後に技術開発の取組については、恒例の「森林・林業技術交流発表会」を2月に開催しましたが、発表課題数が近年では最大となり、森林・林業関係者や試験研究機関、学校関係者の技術交流の場となりました。

また、「展示林・施業指標林のリフレッシュ対策」と銘打ち、国有林内に設置されている展示林等の検証に取り組みました。

以上、昨年の取組を自分なりに整理してみましたが、どの取組もそれぞれ反省すべき点があり、その反省を今年に活かすことが重要だと考えております。

終わりに、今年は国際森林年であり、当課においても、よりその機運を高めるための積極的な取組が必要と考えております。

今年も当課業務への皆様のご理解とご協力をお願いして年頭の言葉とさせていただきます。



2011・国際森林年

# 「森林インストラクター」に4人合格

## ☆ 堀川洋一さん（三八上北署奥瀬森林事務所 森林官）

あけましておめでとうございます。この度、森林インストラクターになることができました。受験に際し、ご協力いただいた職場の皆様、森林、林業について色々教えていただいた皆様に心よりお礼申し上げます。

私の目標は、今より多くの方が森林について興味を持ち、考え、行動するようになることです。そのためには、今、従来の環境教育の場に参加するのはもちろん、自ら、新たな機会を作り出すことも必要だと考えています。臆せず、積極的にがんばっていきます。

手始め？に地元の小学生にバスケットを教えています。上達を促すこと、意識を変えることはとても難しく、悪戦苦闘の毎日ですが森林インストラクターに通ずる点が数多くあり、非常に勉強になります。そして、彼女たちの真剣な顔や無垢な笑顔を見て、この子たちの財産になる、より良いフィールドを作り、残していけたらと思っています。まだまだ技術も経験も乏しい私ですが、よろしくをお願いします。



地元の小学生にバスケットを指導する本人  
(右端)

## ☆ 千葉のぞみさん（三陸中部署世田米森林事務所 森林官）

このたびなんとか森林インストラクター試験に合格することができました。私は3回目の受験でやっと合格できました。1度は諦めたのですが、去年の夏に森林ふれあい研修を受け、せっかく研修を受けたのだから、試験ももう一度挑戦しようと思い受けました。諦めなければ受かります。

この試験を受けようと思ったきっかけは、資格をとった後にインストラクターの方とのつながりができ、イベントの案内や研修会などの情報が手に入ると聞いたからです。私はまだ、自分が講師となりイベントを開くよりも、参加者として参加したり、森林の中で行うゲームなどを知りたいと思っていたので、資格をとってからいろいろなイベントに参加して経験を積みたいです。そして、森林のすばらしさや楽しさをいろいろな人に伝え、共感していけたらと思います。



産業祭りで木工教室の様子（中央が本人）

## ☆ 水村年一さん（庄内署 治山第一係長）

森林インストラクターという資格は以前から興味はあったのですが、これまで受験の期を逃していました。今回、私が受験を決めたきっかけは業務において一般の方々に海岸クロマツ林の歴史や施業についての説明をしたことでした。インストラクター資格の取得を期にいろんな経験を通じて、伝える技術をもっと学んでいければと思い、今年こそは！と受験を決意したわけです。

受験の対策は限られた時間の中でしなければならなかったため、自分にとって新しい知識分野である『野外活動』『安全及び教育』に重点をしぼり、ただひたすら過去問を解くというシンプルなものでした。試験は論述形式がほとんどなので、過去問を解く際には面倒くさくてもとに

かく書いてみるのが重要だと思います。また2次試験対策ではすでに合格している仲間からの情報がとても役に立ちました。この場を借りてお礼申し上げます。

今回、同じ庄内署登山部の加陽君と揃って合格できたことを何よりうれしく思います。しかし資格の取得は単なる知識のインプットに過ぎません。これから実践というアウトプットを通じてこれまで学んだことを身に付け、実りあるものにして、豊かな山づくりや人々の知的好奇心に少しでも応えていけるよう励みます。

### ☆ 加陽将史さん（庄内署 森林育成係）

新年あけましておめでとうございます。この度、森林インストラクター資格試験に合格しました加陽といいます。 鳥海山山頂にて左が水村さん、右が加陽さん



自分が資格取得を決意した理由は、ふれあいや指導普及関係の業務に就きたかったことと、前職で高校生を相手に自然観察会を行った際に、森林や動植物について興味深げに自分の話を聞いてくれる高校生を見てやりがいを感じた為でした。

しかし、当試験は毎年の合格者数が全体の2割程で、易しい試験ではありませんでした。受験すること4回目の今年、ようやく合格することができたので喜びも一入でした。

今後は、参加者に植物の名前を教えるのではなく、そこから木の役割や文化等、森林に関する幅広い分野の話を伝えることのできる森林インストラクターを目指して、案内した方に喜んでもらえるよう研鑽していく決意でいます。

私事ですが、12月に結婚したので、まずは東京育ちの妻に森林の魅力を伝えられればと考えています。

## 東北森林管理局技術開発委員会開催

# 技術開発課題について審議

平成22年12月15日、局第3会議室において東北森林管理局技術開発委員会を開催しました。本委員会は、学識経験者や試験研究機関の職員、県の普及指導の職員、地域林業関係者等の外部委員8名を含む委員16名で構成されており、局署が取り組んでいる技術開発の評価及び成果の普及指導方法等について広く意見等を聴くため毎年開催しています。

はじめに、平野計画部長（委員長）が「先般、林野庁での国有林野事業業務研究発表会において、4課題発表のうち2課題が入賞しました。皆様のご指導を頂きながら技術開発を進めてきた成果の賜とっております。現場の職員も更に高い意識を持って進めていこうとしています。本日は、限られた時間ではありますが、委員の皆様から技術開発課題の審議を通じて貴重なご意見、ご指導をお願いいたします。」と挨拶しました。



技術開発委員会での説明風景

審議は、技術開発課題の22年度実施報告と中間報告、23年度実施計画、23年度林野庁応募型の重点課題等について行われ、森林技術センターや

米代東部署、岩手北部署が取り組んでいる11課題の説明と、重点課題の提案を行い、たくさんの意見をいただきました。

今後の技術開発の進め方、データの取り方、まとめ方、分析や検証の仕方などに大いに反映して技術開発の充実に努めて行きたいと思えます。

## 平成22年度森林・林業技術交流発表会

# 今年38課題の発表を予定

## 森林総合研究所の牧野俊一氏が特別講演

平成22年度森林・林業技術交流発表会を2月3日(木)、4日(金)の両日、東北森林管理局大会議室で開催します。今年度は、局・署等のもとより県や他省庁、森林組合、ボランティア団体、中学・高校・大学など38課題の発表を行う予定です。



昨年の森林・林業技術交流発表会から

特別発表は4課題で、森林総合研究所東北支所、林木育種センター東北育種場、岩手県・山形県の研究機関からの発表を予定しています。

また、「拡大するナラ枯れ-被害拡大予測と防除法-(仮題)」と題して、森林総合研究所森林昆虫研究領域長の牧野俊一氏による特別講演を予定しております。

寒さの厳しい時期ではありますが、多数のご来場をお待ちしています。

## 指導普及課の「年男」の抱負を紹介します

# 今年こそは

仙北谷 誠(課長補佐)

新年おめでとうございます。

今年は、4回目の年男となり、あと一回りで定年?かと思いながら、これまでの仕事や生活面で自分が「今年こそは」と思うことをどのくらい実践してきたのか、自己採点すると反省あれば成果もありますが、どちらかと言えば反省の方が多いと感じております。

皆さんはどうでしょうか。

ただ、反省がなければ「今年こそは」と自分を奮い立たせる目標が、生まれてこないのも事実ではないでしょうか。

今年も、これまでの反省を活かしつつ、実践を通して少しずつ「今年こそは」の目標が達成できるようあまり飛び跳ねることなく、進んで行きたいと考えております。

また、うさぎ年の人は品のある性格で、おとなしく、しとやかで、何事もおちついて品のある行動をとるようです。

ええ「俺と同じだ」と感じる努力も忘れずに行動していきたいと思っております。

どうか更なるご指導をお願いして終わりにします。



緑の山歩塾で参加者を案内する本人